

2019年3月期第1四半期決算に関する電話一斉取材 主なQ & A

[運輸収入]

Q： 在来線関東圏定期外の基礎が計画を下回った理由は。

A： 在来線関東圏定期外については、2018年3月期の実績及び動向を踏まえ、計画を策定している。これまでの強い基礎トレンドを反映した計画を策定した結果、計画を下回る事となった。一方、普通列車グリーン車については、2018年3月期に引き続き、2019年3月期第1四半期も好調に推移した。今後の基礎トレンドの動向を注視していきたい。

Q： 今夏の猛暑による悪影響は出ているのか。

A： 猛暑の影響については、現時点で目立った影響は出ていない。今後分析を深めていきたい。

[営業費用]

Q： 物件費その他のうち、警備委託については対前年で増加したとのことだが、この傾向が通期にわたって続くのか。

A： 警備委託については、対前年+12億円となったが、今後の進捗を踏まえ精査したいと考えている。現時点では物件費その他の通期計画を見直していない。

Q： 各費用項目における2019年3月期第1四半期の主な増減要素と通期計画における進捗はどうか。

A： 人件費について、エルダー社員制度変更による増加と社員数減による減少とが同程度であることなどにより、2019年3月期第1四半期では対前年+1億円であった。なお、エルダー社員制度変更による影響が一巡する第3四半期まで、人件費は2018年3月期と概ね同額での推移を見込んでおり、第4四半期には、社員数減による減少が主な増減要素として発生する見込みである。

修繕費について、建設附帯修繕費の反動減などにより、第1四半期では対前年△6億円であった。

減価償却費について、車両やペリエ千葉の固定資産取得などに伴い、第1四半期では対前年+12億円であった。

租税公課について、固定資産税等の一括納付と評価替えなどにより、第1四半期で

は対前年+31 億円であった。

なお、いずれの費用項目とも第 1 四半期時点では概ね計画通り進捗しており、通期計画は変更しない。

[特別損失]

Q： ポイント引当金繰入額について、2019 年 3 月期第 2 四半期以降にさらに増加する可能性はあるのか。

A： ビューサンクスポイントを JRE ポイントに統合したことに伴い、ポイント有効期限の取扱いを変更したことから、負債の積み増しを行い、ポイント引当金の繰入を実施した。

なお、ビューカードから当社への事業承継に伴う一時的な損失であることから、2019 年 3 月期第 2 四半期以降にポイント引当金繰入額に係る特別損失がさらに増加するものではない。

以 上